

基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	基礎科学		担当教員	大橋敦子		
開講時期	2 年次前期		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数	2単位

■ 科目内容

はりきゅうの臨床の現場では、筋骨格系の痛みのみならず、自律神経失調などの症状や高血圧など循環系に関わる症状や、高血糖など血糖値に関わる症状、うつ症状などの精神機能に関わる症状などを有する患者を診療することがある。この際に各種症状に関わる薬の知識を有することは、患者の症状を深く理解するためにも重要である。本科目では、各種症状に関わる生理機能及び薬物の作用機序を学習する。また本科目では実験実習とそれによって得られたデータに関する解釈を通じ、科学的な思考に必要なスキルを学習することを目的とする。

■ 到達目標

- ・各種症状の病態に関わる生理機能を理解する。
- ・病態に応じた薬物の作用機序を理解する。
- ・実験により得られたデータから客観的・論理的に考察することができる。

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成した資料を基に行う。
- ・参考図書「生理学実習 NAVI 第 2 版（医歯薬出版株式会社）」図書室にあるので読んでおくこと

■ 評価基準

- ・期末試験及び測定実習により提出するレポートにより評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			血圧測定実習
2			
3			血圧を調節するしくみと実習結果のレポート作成
4			
5			薬が作用するしくみ と 薬の体内動態
6			
7			末梢神経に作用する薬の知識
8			
9			鎮痛に関わる薬の知識
10			
11			内分泌に関わる薬の知識
12			
13			血糖値測定実習
14			
15			血糖の調節に関わる薬の知識と実習結果のレポート作成
16			

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	人体機能学		担当教員	志田貴広		
開講時期	2年次後期		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数	4単位

■ 科目内容

Ⅰ年次に履修した解剖学Ⅰ・Ⅱの内容に基づき、人体の構造と機能について学習する。

■ 到達目標

- ・末梢神経系を中心とした神経系について説明できる。
- ・動脈を中心とした脈管系について説明できる。
- ・局所的な運動器の構造や機能について説明ができる。

■ 授業方法・教材

- ・教員が配布する資料
- ・からだが見える -人体の構造と機能- (第1版) 株式会社メディックメディア
- ・病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 (第2版) 株式会社メディックメディア

■ 学習方法

- ・主に座学形式で学習する。必要に応じて学生同士で体表触診等の実技を行う。

■ 評価基準

- ・定期試験の成績で評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション、神経系の確認
2			神経系の確認
3			
4			
5			
6			
7			脈管系の確認
8			
9			
10			
11			運動器系の確認
12			
13			
14			
15			
16			
17			人体の構造と機能に関する復習
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			人体と構造と機能に関する復習
27			
28			
29			
30			

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	病理学概論		担当教員	田中一馬		
開講時期	2 年次後期		総時限数	23 時限	授業形態	講義	単位数	3 単位

■ 科目内容

病理学 (Pathology) とは、どのような仕組みで病気が発症するかを理解する科目である。本教科では、1 年次に自然科学にて学習した生命科学の仕組みを応用し、悪性腫瘍、遺伝性疾患、神経変性疾患、動脈硬化などの循環器疾患、炎症、アレルギー疾患、自己免疫疾患の発症の仕組みについて学習していく教科である。

■ 到達目標

- ・がんが発生するメカニズム、がん関連遺伝子、がんと遺伝子変異、病原体と発がん、がん細胞の性質、がんの悪性化など悪性腫瘍が発現、増殖するメカニズムを理解し、それに対する現代医学的治療（放射線、化学療法、ゲノム医療など）が作用する仕組みを理解する。
- ・血友病やハンチントン病、進行性筋ジストロフィーなどの遺伝性疾患の発症の仕組みを理解する。
- ・パーキンソン病、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患の発症の仕組みを理解する。
- ・動脈硬化が起こる仕組みを理解し、代表的な循環器疾患を理解する。
- ・炎症が起こる仕組みを理解する。また炎症の終局にある線維化（線維症）が起こる仕組みを理解する。
- ・アレルギー疾患、自己免疫疾患のような免疫細胞の異常で起こる疾患の発症の仕組みを理解する。

■ 授業方法・教材

- ・教員が配布する資料を用いて評価する。

■ 評価基準

- ・期末試験（100％）により評価する。

■ 連絡事項

- ・本教科は臨床医学総論（各種診察方法について学習する科目）、臨床医学各論（各種疾患の症状を理解する科目）の基礎をなす教科である。授業進行上同時平行で学習することは少ないが、復習することにより理解が深まるため復習をしていくこと。
- ・本教科の内容は1年次の自然科学の内容を病気にフォーカスして深めた内容である。このため、自然科学の内容についても復習をしておくことで理解がより深まる。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			がんが発生するメカニズム
2			がん関連遺伝子1
3			がん関連遺伝子2
4			がんと遺伝子変異
5			病原体と発がん
6			がん細胞の性質と悪性化
7			がん治療1
8			がん治療2
9			国家試験における悪性腫瘍の知識
10			国家試験における悪性腫瘍の知識
11			遺伝性疾患
12			神経変性疾患
13			国家試験における遺伝性疾患の知識
14			動脈硬化と循環器疾患
15			炎症
16			線維化(線維症)
17			国家試験における炎症の知識
18			国家試験における炎症の知識
19			アレルギー疾患
20			自己免疫疾患1
21			自己免疫疾患2
22			国家試験におけるアレルギー・自己免疫疾患の知識
23			国家試験におけるアレルギー・自己免疫疾患の知識

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床医学総論		担当教員	二本松 明		
開講時期	2 年次通年		総時限数	46 時限	授業形態	講義	単位数	6 単位

■ 科目内容

はり・きゅうなどの東洋療法を実践するためには、西洋医学を基盤とする臨床医学についての全般的知識も必要である。臨床医学総論では、患者さんに対する医療面接技法や全身的及び局所的ならびに系統的な診察法を習得すると共に、臨床検査法や基本的な症候についても十分に理解し、疾患の診断や治療法を学ぶ上での基礎的な知識を学習する。

■ 到達目標

- ・医療面接における注意点や医療面接において確認すべき事項を説明できる。
- ・診察法の種類、身体診察で確認する内容について説明できる。
- ・生命徴候（バイタルサイン）を正しく評価し、その意義を説明できる。
- ・神経系の診察法と神経症状の意味を説明できる。
- ・運動機能の診察法と運動機能障害の意義を説明できる。
- ・臨床検査法の内容を理解し、検査値の意味を説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・教員作成の講義資料を配付する。

■ 評価基準

- ・中間試験（50％）、期末試験（50％）で評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			神経系の診察(感覚検査法)
2			神経系の診察(感覚検査法)
3			神経系の診察(感覚検査法)
4			神経系の診察(反射検査)
5			神経系の診察(反射検査)
6			神経系の診察(反射検査)
7			運動機能検査(運動麻痺)
8			運動機能検査(筋肉の異常)
9			運動機能検査(不随意運動)
10			運動機能検査(協調運動、起立と歩行)
11			生命徴候の診察(脈拍)
12			生命徴候の診察(脈拍)
13			生命徴候の診察(血圧)
14			生命徴候の診察(血圧)
15			生命徴候の診察(体温)
16			生命徴候の診察(体温)
17			生命徴候の診察(呼吸)
18			生命徴候の診察(意識)
19			全身の診察(顔貌・顔色、歩行、姿勢と体位)
20			全身の診察(顔貌・顔色、歩行、姿勢と体位)
21			全身の診察(顔貌・顔色、歩行、姿勢と体位)
22			全身の診察(身体計測、体型・体格、栄養状態)
23			全身の診察(身体計測、体型・体格、栄養状態)
24			全身の診察(身体計測、体型・体格、栄養状態)
25			全身の診察(身体計測、体型・体格、栄養状態)
26			全身の診察(言語)
27			全身の診察(言語)
28			局所の診察(頭部、顔面、眼)
29			局所の診察(頭部、顔面、眼)
30			局所の診察(頭部、顔面、眼)
31			局所の診察(鼻、耳、口腔、頸部)
32			局所の診察(鼻、耳、口腔、頸部)

33			局所の診察（鼻、耳、口腔、頸部）
34			局所の診察（鼻、耳、口腔、頸部）
35			局所の診察（鼻、耳、口腔、頸部）
36			局所の診察（胸部、乳房、肺・胸膜）
37			局所の診察（打診・心音・呼吸音）
38			局所の診察（打診・心音・呼吸音）
39			局所の診察（打診・心音・呼吸音）
40			局所の診察（打診・心音・呼吸音）
41			局所の診察（腹部）
42			局所の診察（腹部）
43			局所の診察（四肢）
44			局所の診察（四肢）
45			局所の診察（四肢）
46			まとめ

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床医学各論		担当教員	塩崎 郁哉		
開講時期	2年次通年		総時限数	60時限	授業形態	講義	単位数	8単位

■ 科目内容

今日において様々な疾患があり、鍼灸治療に訪れる方々の病態や疾患も多岐にわたる。鍼灸治療の適応疾患は数多くある一方で、全てが適応というわけではなく、各種医療機関と連携をとりながら治療を進めていく必要がある。また、鍼灸師もチーム医療の担い手としてのニーズも高まってきており、他の医療従事者との共通認識、共通言語を持つことが求められる。

本講では現代医学の観点から各領域の代表的な疾患の概要を学ぶ。他の専門基礎分野科目の知識と関連づけながら、国家試験の対策のみならず、臨床に活かせる疾患の見方、考え方を身につけていく。

■ 到達目標

- ・各領域の代表的な疾患について、その概念、疫学、病態、症状、所見、治療、経過や予後を説明できるようにする
- ・現代医学の考え方を学び、鍼灸臨床のみならず、鍼灸師という医療人として他の医療関係者と対等に活躍できる力を身につける

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成した資料、プリントを中心に授業を進める
- ・「病気がみえる」各巻（医療情報科学研究所編、メディックメディア）：教室にあり

■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・解剖学や生理学の知識が本科目を理解するうえで必要になるため、予習・復習では解剖学や生理学の教科書と共に勉強することで、相互の理解がより深まる
- ・日常生活にアンテナを張り、ニュース等で出てくる病気や疾患について興味を持ち、その都度調べてみることで理解が深まる

■ 成績評価

- ・中間試験(50%)、期末試験(50%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			運動器疾患
2			運動器疾患
3			運動器疾患
4			運動器疾患
5			運動器疾患
6			運動器疾患
7			運動器疾患
8			運動器疾患
9			運動器疾患
10			運動器疾患
11			運動器疾患
12			運動器疾患
13			運動器疾患
14			運動器疾患
15			運動器疾患
16			神経疾患
17			神経疾患
18			神経疾患
19			神経疾患
20			神経疾患
21			神経疾患
22			神経疾患
23			神経疾患
24			神経疾患
25			神経疾患
26			神経疾患
27			神経疾患
28			神経疾患
29			消化器疾患
30			消化器疾患
31			消化器疾患
32			消化器疾患

33			消化器疾患
34			消化器疾患
35			消化器疾患
36			消化器疾患
37			消化器疾患
38			消化器疾患
39			循環器疾患
40			循環器疾患
41			循環器疾患
42			循環器疾患
43			循環器疾患
44			循環器疾患
45			循環器疾患
46			腎・泌尿器・生殖器疾患
47			腎・泌尿器・生殖器疾患
48			腎・泌尿器・生殖器疾患
49			腎・泌尿器・生殖器疾患
50			腎・泌尿器・生殖器疾患
51			腎・泌尿器・生殖器疾患
52			腎・泌尿器・生殖器疾患
53			呼吸器疾患
54			呼吸器疾患
55			呼吸器疾患
56			呼吸器疾患
57			呼吸器疾患
58			呼吸器疾患
59			呼吸器疾患
60			呼吸器疾患

専門分野

昼間部 夜間部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう理論		担当教員	二本松 明		
開講時期	2 年次通年		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数	4単位

■ 科目内容

患者さんに鍼や灸をするときに、①どこへ（圧痛点、硬結部位など）、②どのように（道具、刺激方法）を選択する必要がある。その際、それぞれの方法にどのような特徴があるかを知ることは効果的な治療を行うためにも重要である。また、鍼灸刺激が生体にどんな影響を及ぼすのか？、それはどのような仕組みによるものなのかを知っていなくてはならない。鍼灸理論は以上の内容を学習する教科である。

■ 到達目標

1. 治療法の決定に必要な治療法の特徴とそのメカニズムについて説明できる。
2. 鍼灸治療の際に用いる経絡・経穴の現代医学的解釈について説明できる。
3. 鍼灸治療効果に関わる基礎知識（神経・感覚生理学）について説明できる。
4. 鍼灸刺激による生体への影響（内臓機能の調節、鎮痛効果等）のメカニズムについて説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・「はり・きゅう理論」：（社）東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・サブテキスト「生理学」：（社）東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・教員が作成したプリント

■ 学習方法

- ・解剖学、生理学、はりきゅう実技の知識が必須となるため、復習しておくこと

■ 成績評価

- ・中間試験（50%）、期末試験（50%）で評価する。

担当教員 二本松 明

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 新潟看護医療専門学校 東洋医療センター鍼灸治療院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			感覚(触圧覚)の受容と伝導
2			感覚(触圧覚)の受容と伝導
3			感覚(温度感覚)の受容と伝導
4			感覚(温度感覚)の受容と伝導
5			感覚(深部感覚)の受容と伝導
6			深部感覚と運動神経反射
7			感覚(痛覚)の受容と伝導
8			感覚(痛覚)の受容と伝導
9			鍼刺激による鎮痛メカニズム その① 局所性鎮痛
10			鍼刺激による鎮痛メカニズム その① 局所性鎮痛
11			鍼灸刺激による軸索反射
12			鍼灸刺激による軸索反射
13			鍼刺激による鎮痛メカニズム その② 脊髄レベルでの鎮痛機構
14			鍼刺激による鎮痛メカニズム その② 脊髄レベルでの鎮痛機構
15			鍼刺激による鎮痛メカニズム その③ 鍼鎮痛のメカニズム
16			鍼刺激による鎮痛メカニズム その③ 鍼鎮痛のメカニズム
17			鍼刺激による鎮痛メカニズム その③ 鍼鎮痛のメカニズム
18			鍼刺激による鎮痛メカニズム その④ 広汎性侵害抑制性調節(DNIC)
19			鍼灸刺激による自律神経機能の調節(体性—自律神経反射)
20			鍼灸刺激による自律神経機能の調節(体性—自律神経反射)
21			鍼灸刺激による自律神経機能の調節(体性—自律神経反射)
22			関連学説 ストレス学説
23			生理学運動機能(筋機能)
22			生理学運動機能(筋機能)
23			生理学運動機能(筋機能)
24			生理学運動機能(筋機能)
25			運動神経系に対する鍼刺激の効果
26			生理学内分泌系
27			生理学内分泌系
28			生理学内分泌系
29			性ホルモンと鍼灸刺激
30			まとめ

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	東洋医学臨床論		担当教員	川浪 勝弘 八重樫 稔 大塚 吉則		
開講時期	2年次通年		総時限数	54時限	授業形態	講義	単位数	7単位

■ 科目内容

鍼灸臨床にとって必要な主要症候に対して、治療の適・不適を判断する。疾患の特徴、治療方針、鍼灸治療の方法について学習し、東洋医学的視点と西洋医学的視点を総合した鍼灸治療を学習する。日常遭遇する頻度が高い症候・疾患の診察および鍼灸治療に必要な知識を修得する。国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について、基本的な事項を重点的に学習する。

日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。漢方医学の全体の概念を把握する。

■ 到達目標

- ・臨床上遭遇しやすい疾患に対して、鑑別診断を行うことが出来る。
- ・疾患を把握し、疾患の特徴を説明することが出来る。
- ・国家試験に出題される疾患に対して、重要点を説明することが出来る。

■ 授業方法・教材

教員が作成する資料、図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ（文光堂）

■ 学習方法

各疾患の特徴を把握し、鑑別診断を行う。

教員が配布した資料をもとに授業を進めていく。

■ 評価基準

中間試験:50点 期末試験:50点

担当職員 川浪 勝弘

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 札幌センチュリー病院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			弁証の立て方
2			弁証の立て方
3			弁証の立て方
4			弁証の立て方
5			東洋医学的診断法
6			東洋医学的診断法
7			配穴法
8			配穴法
9			頭痛
10			頭痛
11			顔面痛
12			顔面痛
13			顔面神経麻痺
14			顔面神経麻痺
15			めまい
16			めまい
17			耳鳴り
18			耳鳴り
19			咳嗽
20			咳嗽
21			風邪
22			風邪
23			腹痛
24			腹痛
25			便秘と下痢
26			便秘と下痢
27			婦人科疾患
28			婦人科疾患
29			月経異常
30			月経異常
31			漢方医学
32			漢方医学

33			漢方医学
34			漢方医学
35			温泉医学
36			温泉医学
37			運動器疾患
38			運動器疾患
39			運動器疾患
40			運動器疾患
41			運動器疾患
42			運動器疾患
43			運動器疾患
44			運動器疾患
45			運動器疾患
46			運動器疾患
47			運動器疾患
48			運動器疾患
49			運動器疾患
50			運動器疾患
51			運動器疾患
52			運動器疾患
53			十二経脈、奇経八脈
54			十二経脈、奇経八脈

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	経絡経穴概論		担当教員	志田貴広		
開講時期	2 年次前期		総時限数	30 時限	授業形態	講義	単位数	4 単位

■ 科目内容

1 年次に修得した知識を基に、2 年次では応用的な知識や取穴などの技術の精度を高めることに重点を置いた授業を行う。経穴の特性を考慮した施術を身につけるため、日本の伝統的な経絡治療を学ぶ。

■ 到達目標

1. 経絡経穴に関する知識を深め、資格取得に必要な知識レベルに到達する。
2. 経脈流注の関連を理解し、整合性のある取穴を手際よく正確に行うことができる。
3. 経穴の意義や役割、解剖学的な知識を理解し、体表部より触察することができる。

■ 授業方法・教材

教科書：「新版 経絡経穴概論 第 2 版」

1. 教科書や教員が作成した資料を用い、座学と実技を並行して行う。

■ 学習方法

取穴の実技では実際の鍼灸臨床を意識し、患者の個人差を想定した取穴や身体の部位別の取穴を学ぶ。そのため、自発的になるべく多くの人の身体で取穴を行い、経験を積むようにすること。また、取穴の際に経穴の部位や解剖学の知識が必要になるため、授業前に 1 年次の復習を行っておくことが望ましい。

■ 評価基準

定期試験により評価する。

担当職員 志田 貴広

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 みらい鍼灸院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション
2			第2章 経脈・経穴 奇経八脈
3			第2章 経脈・経穴 奇経八脈
4			第2章 経脈・経穴 奇経八脈
5			第2章 経脈・経穴 奇穴
6			第2章 経脈・経穴 奇穴
7			第2章 経脈・経穴 奇穴
8			第3章 経絡・経穴の現代的な研究
9			経絡経穴を用いた治療法（経絡治療の基礎）
10			経絡経穴を用いた治療法（経絡治療の基礎）
11			経絡経穴を用いた治療法（経絡治療の基礎）
12			経絡経穴を用いた治療法（経絡治療の基礎）
13			経絡経穴を用いた治療法（経絡治療の基礎）
14			経絡経穴を用いた治療法（経絡治療の基礎）
15			前半のまとめ
16			経穴の取穴部位の確認
17			経穴の取穴部位の確認
18			経穴の取穴部位の確認
19			経穴の取穴部位の確認
20			経穴の取穴部位の確認
21			経穴の取穴部位の確認
22			経穴の取穴部位の確認
23			経穴の取穴部位の確認
24			経穴の取穴部位の確認
25			経穴の取穴部位の確認
26			経穴の取穴部位の確認
27			経穴の取穴部位の確認
28			経穴の取穴部位の確認
29			経穴の取穴部位の確認
30			後半のまとめ

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	生体観察		担当教員	塩崎郁哉		
開講時期	2年次前期		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数	4単位

■ 科目内容

我々鍼灸師は血液検査や生化学検査、画像検査を行うことはできず、問診や視診などから患者情報を集め、施術に活かしていかなければならない。特に整形外科的疾患は施術対象になるものが多く、よりよい施術を行うために状態を鑑別していくことが必要となる。整形外科的理学検査を実施できるようにし、今後の実技・臨床実習・卒後に活かせるようする。また、近年、鍼灸臨床の中に超音波機器を利用する施術者が増えてきていることから、超音波機器に触れる機会を設ける。

■ 到達目標

1. 必要に応じた整形外科的理学検査を選択し、適切に実施し、疾患の鑑別に役立てることができるようになる。
2. エコーの走査やエコー画像に慣れる。

■ 授業方法・教材

・教員が作成する資料

■ 学習方法

・各種整形外科的理学検査と対象となる疾患、検査のやり方、陽性所見を理解する

■ 持ち物

・白衣、ハーフパンツ、タオルなど

■ 成績評価

・中間試験(50%)、期末試験(50%)

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			頸・肩部の整形外科的理学検査
2			
3			
4			
5			腰部の整形外科的理学検査
6			
7			
8			
9			肩関節の体表解剖・エコー走査・整形外科的理学検査
10			
11			
12			
13			肘関節・前腕・手関節の体表解剖・エコー走査・整形外科的理学検査
14			
15			
16			
17			股関節・大腿部の体表解剖・エコー走査・整形外科的理学検査
18			
19			
20			
21			膝関節の体表解剖・エコー走査・整形外科的理学検査
22			
23			
24			
25			下腿・足関節・足部の体表解剖・エコー走査・整形外科的理学検査
26			
27			
28			
29			まとめ
30			

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床実習		担当教員	阿部 吉則 煤賀 有美		
開講時期	2年次通年		総時限数	46 時限	授業形態	実技	単位数	2単位

■ 科目内容

実際の鍼灸臨床の現場において、これまで学んできた座学および実技の知識・技術を確認し、2 年次と 3 年次にわたって鍼灸師として必要とされる臨床能力を総合的に育成する。

2 年次は、臨床実習前教育として主にコミュニケーション技法や医療面接を学び、鍼灸の基礎を復習する。また、北海道鍼灸専門学校附属臨床センターや外部の施術所または施設にて見学実習に参加する。

3 年次は、学校の附属臨床実習センターにおける外来診療に参加し、臨床実習指導者の指導・監視の下、時間内に鍼灸施術ができることを目的とする。

■ 到達目標

1. 医療従事者として適切な服装や身だしなみ、挨拶ができる。
2. 患者に不快感を与えない言葉遣いや、行動ができる。
3. 医療面接を行うことができる。
4. 診療録(カルテ)を書くことができる。
5. 基本的な鍼灸施術を行うことができる。

■ 授業方法・教材

特定の教科書はないため、講義ごと PC スライド、動画などを利用して学習する。

■ 学習方法

本科目は 2 年次に学習する「臨床医学総論」、「臨床医学各論」、「東洋医学臨床論」「人体機能学」「生体観察」の内容を踏まえ、その実技を行う科目です。常に各科目との関連を振り返るよう学習を進めてください。

■ 評価基準

毎週の課題、GW、夏休み、冬休みの課題の提出。

出席率 80%以上。

実技試験、レポート提出等の状況を踏まえて総合的に評価する。

■ 連絡事項

後期に行う実技試験が不合格の場合、春休みを利用して補講を行い、適宜追試験を行う。

担当教員 阿部 吉則

資 格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 ユリ治療室

担当教員 煤賀 有美

資 格 はり師・きゅう師、看護師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 SSC ビューティークリニック

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1・2			3年生の施術体験
3～10			医療面接の概要
11・12			オリエンテーション(見学実習について)
13・14			見学実習
15・16			見学実習
17・18			見学実習
19・20			見学実習
21・22			見学実習
23・24			見学実習
25・26			下腿の刺鍼・施灸
27・28			下腿の刺鍼・施灸
29・30			下腿の刺鍼・施灸
31・32			背部の刺鍼・施灸
33・34			背部の刺鍼・施灸
35・36			背部の刺鍼・施灸
37・38			背部の刺鍼・施灸
39・40			背部の刺鍼・施灸
41・42			背部の刺鍼・施灸
43・44			実技試験
45・46			実技試験

オリエンテーションは見学実習前に行う。

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう実技		担当教員	川浪 勝弘 煤賀 有美		
開講時期	2年次通年		総時限数	75時限	授業形態	実技	単位数	5単位

■ 科目内容

- ・日常疾患で遭遇しやすい運動器疾患の診察方法・治療方針について、現代医学的なアプローチを系統的に疾患別に学習する。
- ・産婦人科領域、小児はり、美容鍼について治療技術を修得する。

■ 到達目標

- ・疾患別に診察・治療方針を立て、治療することが出来る。
- ・身体各部の刺激方法および経穴に対して、正しく刺鍼法を修得することが出来る。
- ・施灸用具とその取扱い、種々の灸療法、治療点に対して正しく施灸することが出来る。

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成する資料

■ 学習方法

- ・教員がデモンストレーションを行い、その後にペアに分かれて刺鍼・施灸を行う。

■ 評価基準

- ・実技試験：60 点以上（前期中間実技試験、前期期末実技試験、後期期末実技試験）
- ・出席率：80%以上

担当職員 川浪 勝弘

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 札幌センチュリー病院

担当職員 煤賀 有美

資格 はり師・きゅう師、看護師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 SSC ビューティークリニック

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			基本的な刺鍼手技・施灸手技
2			基本的な刺鍼手技・施灸手技
3			基本的な刺鍼手技・施灸手技
4			基本的な刺鍼手技・施灸手技
5			肩こり
6			肩こり
7			肩こり
8			肩こり
9			肩こり
10			肩こり
11			肩関節
12			肩関節
13			肩関節
14			肩関節
15			肩関節総括
16			胸郭出口症候群
17			胸郭出口症候群
18			胸郭出口症候群
19			胸郭出口症候群
20			胸郭出口症候群に対しての総括
21			肘関節（外側上顆炎・内側上顆炎）
22			手関節
23			手関節
24			肘・手関節に対しての総括
25			上肢 要穴部位の確認
26			上肢 要穴部位の総括
27			上肢 要穴部位の確認
28			腰背部
29			腰背部
30			腰背部
31			腰背部総括
32			下肢神経痛

33			下肢神経痛
34			下肢神経痛
35			下肢神経痛総括
36			股関節
37			股関節
38			股関節疾患に対しての総括
39			冷え、むくみ
40			冷え、むくみ
41			月経不順
42			月経不順
43			月経不順
44			月経不順
45			不妊
46			不妊
47			不妊(男性不妊)
48			不妊(男性不妊)
49			妊娠期
50			妊娠期
51			産後
52			産後
53			小児はり
54			小児はり
55			思春期
56			思春期
57			更年期
58			更年期
59			ダイエット
60			ダイエット
61			美容鍼
62			美容鍼
63			美容鍼
64			美容鍼
65			育毛鍼
66			育毛鍼

67			症例施術
68			症例施術
69			症例施術
70			症例施術
71			症例施術
72			症例施術
73			症例施術
74			症例施術
75			灸施術（塩灸、味噌灸、ショウガ灸）